



山王台だより7月号

令和5年6月30日

横浜市立山王台小学校

〒235-0016

横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL:045(755)1107

【学校教育目標】自分のよさに気づき、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる

本物体験

副校長 山田 正治

5月に新型コロナウイルス感染症の法的な位置づけが「5類感染症」に移行され、様々な制限が解除あるいは緩和され、人々の日常がいわゆるコロナ前にかなり戻ってきました。それまでも少しずつ解除、緩和は進められていましたが、この「5類移行」は、大変大きな転機となったように感じます。

本校の教育活動においても多くのものが以前の状態に戻ってきました。今年度に入ってからですと、マスク着用不要場面の増加、全校音楽朝会や集会の体育館での実施、授業参観の参観人数や時間の制限の撤廃、水泳学習時間の増加（各学年で昨年度2回⇒今年度5回）などが行われました。日常の多くが取り戻されたことにより、子どもたちの笑顔がより多く見られるようになった気がします。

さて、コロナの影響で様々な制限がありましたが、その中でも教育活動に最も影響があったものの一つに、人の移動と接触がありました。学校現場でいうと、校外学習（宿泊学習、社会科見学、遠足、芸術鑑賞・発表など）や出前授業（講師、ゲストティーチャーを招いての学習）がそれに当たると思います。これらが制限されることにより、子どもたちは「本物」に触れる機会が制限されてしまったわけです。

現代の科学技術の進歩は目覚ましく、その場に留まりながら数多くの多様な情報を得ることができます。実際に目的の場所に行かなくても、目的の人と会えなくてもオンラインで画像や映像で見たり聞いたりする活動ができるようになっていきます。更に、特殊な装置を使えば、実体験に限りなく近いもの（VRなど）を得ることもできます。実際に「本物」を見なくても、「本物」に会わなくても、ある程度の情報を得たり、疑似体験したりすることはできるのです。

しかし、そういった活動と「本物」に実際に触れることとは、近くはありますがその間には大きな壁があると思います。国内外の名所を見る際に、インターネットの動画サイトを視聴するのと、実際に行くのとで雲泥の差があるのは想像に難くないでしょう。動画の映像はあくまでも撮影者の視点であり、実際に自分が行くと、他の角度から見ているかもしれません。カメラに写っていない、マイクが拾っていない音もあるでしょう。ましてや匂いや空気感は現場でないと感じられません。人についても、オンラインで言葉のやりとりはできますが、実演は対面の方が分かりやすいですし、感情（思い）も伝わりやすいのではないのでしょうか。

インターネット全盛の現代だからこそ、他者が収集した情報だけでなく、自分が実際に体験したことをもとにして思考することが大事なのではないかと思いつく感じがします。学校では、教育活動において「本物」体験の場を数多く設けていくことを、自ら見て聞いて考える子の育成につなげていければと考えています。

本校では今年度も「本物」体験の場を各学年で計画しています。既に3年生は県警本部や横浜中心部の見学、2年生は野毛山動物園への遠足、5年生は三浦宿泊体験学習を実施しました。ゲストティーチャーによる授業も昨年以上に行われています。そして、7月は6年生の修学旅行、4年生の上郷宿泊体験学習が予定されています。子どもたちは、それぞれの場で、多くの「本物」体験をしてきてくれることでしょう。